

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	与那原町魅力発信事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章—3—(2)—(イ)	
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成26年～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ—1—(1)	
事業内容	本町の魅力を県内外に広く発信するため、一年を通して各種イベントを実施し情報発信を行う。また、イメージキャラクター等のプロモーション及び観光促進コンテンツを制作し、本町のイメージキャラクター及び観光PRを通して観光客誘致を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	6,060	22,540	84,055	60,380	54,519	
	(b) 予算現額	7,060	17,840	38,461	58,367	45,845	
	(c) 増減額(b-a)	1,000	▲ 4,700	▲ 45,594	▲ 2,013	▲ 8,674	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	7,060	17,840	38,461	58,367	45,845	
	B. 執行済額	6,932	16,923	36,591	57,187	41,975	
	うち交付金充当額	5,545	13,538	29,273	45,749	33,580	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.2%	94.9%	95.1%	98.0%	91.6%	
予算の状況の説明	令和元年度は変更申請を行い、8,674千円の減額を行った。不用額3,870千円については入札残等によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	各種イベント(地域活性化イベント)	目標	(5回)	(2回)	()	()	
		実績	5回	2回			
	イメージキャラクター等プロモーション推進	目標	()	(1式)	()	()	
		実績		1式			
	観光促進コンテンツ制作	目標	()	(コンテンツ制作)	()	()	
		実績		コンテンツ制作			
	大綱曳PR資料作成	目標	()	(1式)	()	()	
		実績		1式			
与那原大綱曳まつり運営補助	目標	(1式)	(1式)	()	()		
	実績	1式	1式				
達成状況説明	与那原大綱曳PR事業として、CM作成、ラジオ・テレビ放送(民放3局)、モノレールへの広告、那覇てんぶすビジョン広告等を行った。イメージキャラクター等プロモーション推進事業においてはオリジナル楽曲作成、ダンスの振り付け、PR動画DVD作成、絵本の作成、公用車にイメージキャラクターのラッピングを行い、町内外にイメージキャラクターのPRを行った。観光促進コンテンツ制作事業では観光コンテンツを閲覧するためのタブレットのアプリ開発、コンテンツ制作、サーバー・デザイン等を行い、新たな観光資源の開発ができた。また、「与那原大綱曳まつり」PR資料として大綱曳パンフレット、パンフレット(簡易版)の製作もを行い、「与那原大綱曳まつり」を町内外にPRした。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	与那原大綱曳まつりの誘客	目標	()	(18,800人)	(18,800人)	(24,000)	()
		実績			23,109人	19,099人	68,000人
	与那原大綱曳まつりの満足度	目標	()	()	()	(70%)	()
		実績				72%	
	その他の事業で誘客(ゆかたまつり・与那原マルシェ)	目標	()	()	()	(4,000人)	()
実績					0人		
進捗状況説明	・与那原大綱曳まつりについては、綱曳会場とまつり会場とを分けてイベントを実施し多くの来訪者を受け入れることが可能となった。また、令和元年度は町制施行70周年の年だったため、まつりにも記念事業という冠をつけてイベントや舞台演出、広告等に例年以上に力を入れて取組んだ結果、目標の誘客数を大幅に達成し、また、高い満足度が得られた。 ・補助金の交付団体である与那原地区社交飲食業組合では「ゆかたまつり」と「スタンプラリー」イベントを実施したが、「ゆかたまつり」に関してはまつり開始の1時間前から荒天となり中止となった。また、与那原町魅力発信事業イベント「よなばるマルシェ」が令和2年3月1日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となったため、その他の事業(ゆかたまつり、与那原マルシェ)での誘客数が0人となり、目標を達成できなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・今年度の与那原大綱曳まつりは、初めて綱曳会場とまつり会場を二手に分けて開催した。また、町制施行70周年記念事業という冠をつけてイベントや舞台演出、広告等に例年以上に力を入れて取組んだ結果、昨年度実績に比べて48,900人増という結果となり目標は達成できたが、想定外の人数だった為、トイレ等の設備不足、駐車場・ゴミ処理問題など多くの問題点が見られた。</p> <p>・「ゆかたまつり」や「与那原町魅力発信事業イベント(よなばるマルシェ)」に関しては当日の荒天や新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった為、目標を達成できず、屋外でのイベント運営に課題がある。</p>	<p>・「与那原大綱曳まつり」は次年度も2会場に分けて開催する事が決定しているため、今年度が発生した諸問題の解決策を検討し、安定したまつり運営を行う。</p> <p>・屋外イベントに関しては前日から会場準備をする為、イベント当日の荒天等による中止の懸念は拭えないが、代替イベントの実施を検討する必要がある。</p> <p>・新型コロナウイルス感染状況を考慮し、次年度の開催時期等について検討する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・今後も「与那原町観光実施計画」の重点施策の3本柱である「Ⅰ. 大綱曳、Ⅱ. 水路、Ⅲ. MICE」を主軸として、効率的で持続可能な事業を実施する。</p> <p>・イベントにおいてアンケート調査を引き続き行い、結果を整理・分析し、来訪者の声、町民の声を与那原町の観光施策に反映していきたい。</p> <p>・屋外イベントの開催については、関係団体等と十分に協議を行い、運営方針等を検討するとともに、新型コロナウイルスの感染状況等を考慮のうえ適切に判断する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		43,721	41,975	33,580	8,395	1,746
与那原町 41,975千円	共済費・賃金 3,382千円	臨時職員2名分 本事業全般を担当				
	報償費 145千円	委員謝礼金・講師謝礼金 与那原町イメージキャラクター等プロモーション推進委員謝礼金95千円、ガイド育成講座講師謝礼金50千円				
	需用費 145千円	事務消耗品費 95千円 宛名ラベルシート、軽便与那原駅舎来館4万人記念パネル他				
		印刷製本費 50千円 ガイド育成講座テキスト製本代(50部)				
	役務費 4,169千円	(有)ワールド広告社 22千円 琉球新報特集企画「沖縄イベント小百科」に掲載				
		(株)沖縄映像センター 43千円 那覇市てんぶす館てんぶすビジョンへの広告掲載				
		(株)アカネクリエーション 442千円 沖縄利モルレル駅内でのスタンド広告、車両内への中吊ポスター広告、改札機へのステッカー広告				
		ゆい工房 458千円 公用車2台への車両ラッピング				
		(株)JTB沖縄 748千円 観光情報誌 るるぶ沖縄'21への広報紙掲載				
		テレビ民放3局・ラジオ民放3局 2,456千円 テレビ⇒沖縄テレビ(株)、琉球朝日放送(株)、琉球放送(株) ラジオ⇒(株)エフエム沖縄、琉球放送(株)、(株)ラジオ沖縄				
	委託料 15,845千円	株式会社シネマ沖縄 453千円 「与那原大綱曳」スポットCM製作				
		丸正印刷(株) 810千円 与那原大綱曳PRパンフレット 1,000部 与那原大綱曳PRパンフレット(簡易版) 2,000部				
		中村印刷株式会社 49千円 るるぶ掲載ページデザイン(1ページ)オリジナルイラスト入り				
		株式会社あしひつとワークス 6,022千円 与那原町観光促進コンテンツ製作事業				
株式会社 MARUKIN 5,347千円 与那原町イメージキャラクター等プロモーション推進業務						
備品購入費 2,719千円	株式会社 ステップ 3,164千円 与那原町魅力発信事業地域活性化イベント運営業務					
	(有)沖広販 2719千円 E-ZUPテント 10張り、ガーデンテーブル&チェア(5点セット)50セット、アルミガーデンパラソル20セット					
補助金 15,570千円	与那原大綱曳まつり運営委員会 13,770千円 与那原大綱曳まつり運営補助金 (委員会及び組合負担分(交付対象外経費) 1,746千円)					
	与那原地区社交飲食業組合 1,800千円 イベント運営補助(ゆかたまつり)、スタンプラリー					

資金の流れ、評価項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、本町の契約・会計規則に基づき、見積りによる競争や指名競争入札、プロポーザルにより選定しており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○複数見積等により予算を確定しており予算規模は妥当と考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については、「与那原町地域振興推進事業交付金交付要綱」に定める交付率に基づいており、負担関係は妥当であると考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については実施段階で十分な検討を重ねており、目的に即した真に必要なものとなっている。

市町村名	与那原町
------	------

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	きめ細かな児童生徒支援事業(小学校・中学校)	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
----------	-----	------------------------	--------------------	-------------

担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)
-------	-------	------------	------------	--------------	-----------------------------

事業内容
 学習の遅れ気味な児童生徒に対し、学力に応じた個々の学習指導を行うことで、学力の向上を図る。
 特別な支援を要する障害がある児童生徒に対応した支援を行うことで、学校生活や学習上の困難の改善を図る。
 特別な支援を要する不登校の児童生徒に対応した支援を行うことで、不登校の改善を図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	77,688	91,130	90,911	74,887
(b) 予算現額	77,688	71,110	78,313	72,119	66,392	
(c) 増減額(b-a)	0	▲ 20,020	▲ 12,598	▲ 2,768	▲ 12,699	
(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
A. 計(b+d)	77,688	71,110	78,313	72,119	66,392	
B. 執行済額	74,909	66,930	75,305	65,949	60,423	
うち交付金充当額	59,927	53,544	60,244	52,758	48,338	
次年度繰越額	0	0	0	0	0	
執行率(%) (B/A)	96.4%	94.1%	96.2%	91.4%	91.0%	
予算の状況の説明	欠員期間・出勤実績による予算12,699千円を減額。不用額5,138千円は新型コロナウイルス感染症の影響により休校となったため、人件費・委託費にかかる差額等。					

R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
学習支援員18名配置	目標	(20名)	(21名)	(18名)	(18名)
	実績	20名	20名	18名	18名
特別支援教育支援員17名配置	目標	(26名)	(24名)	(16名)	(17名)
	実績	26名	24名	16名	17名
スクールカウンセラー2名配置	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(2名)
	実績	1名	1名	1名	2名
特別支援教育コーディネーター1名配置	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)
	実績	1名	1名	1名	1名
放課後学習支援員4名配置	目標	(4名)	(4名)	(4名)	(4名)
	実績	4名	4名	4名	4名
達成状況説明	支援員等の配置は、概ね目標を達成することができたが、通年での配置は出来なかった。特別支援教育コーディネーターは定期的に学校訪問し、気になる児童生徒の指導方法の改善に関する助言等を行った。スクールカウンセラーは定期的に学校訪問し、児童生徒の教育相談、保護者との面談等を行った。学習支援員は授業で担任の指導の下、児童生徒に対して学習支援、補習指導を行った。特別支援教育支援員は、気になる児童生徒の学習支援や学校生活支援を行った。放課後学習支援員は、児童生徒の家庭学習が定着するために児童館における学習支援を行った。				

R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差 小学校:県との差0.3ポイント以上 中学校:県との差2.3ポイント以上	目標	()	(小学校+0.3 中学校+5.4)	(小学校+0.3 中学校+5.4)
不登校児童生徒復帰率 10%以上	目標	()	(復帰率 10%以上)	(復帰率 10%以上)	(復帰率 10%以上)	()
	実績		復帰率11%	復帰率8.5%	復帰率8.9%	
「特別支援教育支援員の対応への満足度」(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
	実績		92.8%	97.8%	97.8%	

進捗状況説明
 小学校・中学生ともに「沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差」の目標値を達成することができなかった。「不登校児童生徒の復帰率10%以上」については、目標を達成することができなかった。昨年度に引き続き不登校生が増加していることが原因である。不登校児童・生徒の復帰だけでなく、不登校を未然に防ぐ更なる対策を検討する必要がある。保護者の特別支援員への満足度は97.8%となり、目標を達成した。

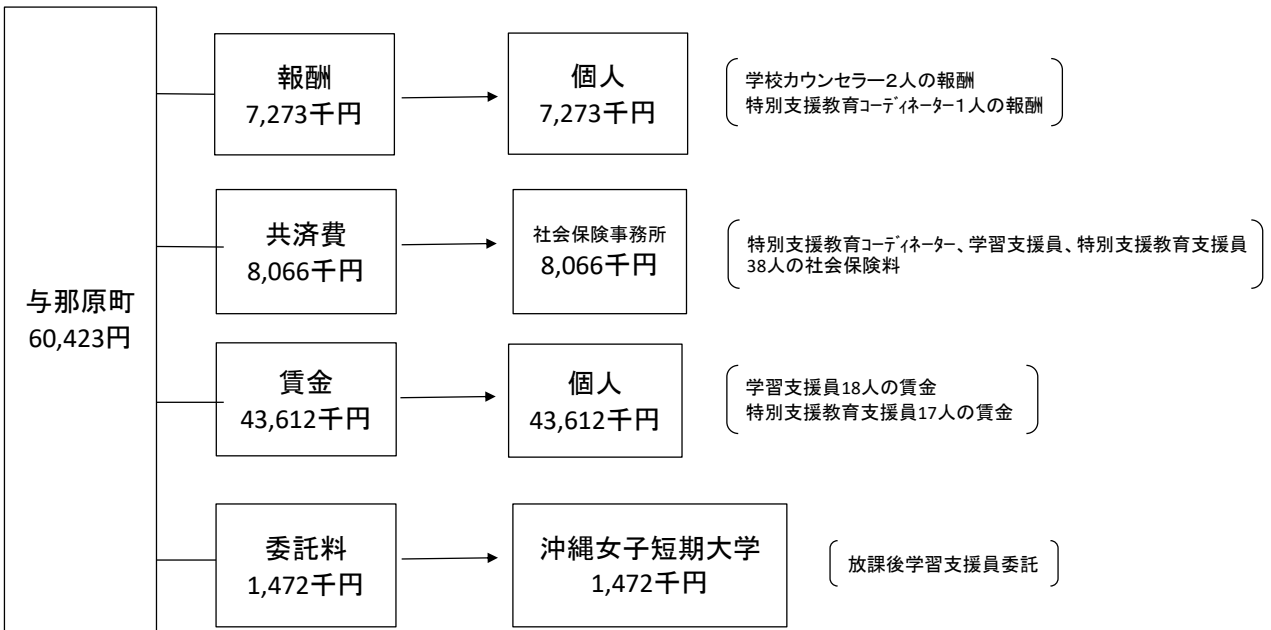
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>沖縄県の学力は上昇傾向にあり、全国学力調査の全国平均正答率との差は改善している(平成24年度▲2.6→平成31年度▲0.5)。</p> <p>雇用を予定していた学習支援員が臨時教員への登用等により、必要な人材確保が困難となった。</p> <p>不登校については、学校だけでは十分な対応が出来ない状況である。</p>	<p>TT体制(Team Teaching)の見直し。支援員は見回りや声掛け等だけでなく、教員との連携のもと、学習内容についても積極的に関わり、より効果的な学習支援に努める。</p> <p>令和2年度から会計年度任用職員の制度が始まったので、以前よりは勤務条件が改善されている。継続して勤務してもらえるような環境づくりをしていく必要がある。</p> <p>不登校について、学校だけではなく、地域や関係機関と連携する手法について検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

学習支援員の指導力の向上。町教委主催の支援員研修だけでなく、スキルアップを図るための校内研修の機会を設ける。
 教科担任と学習支援員の打合せや授業検討会の場等を設ける。
 学習支援員及び特別支援教育支援員のより良い勤務環境の検討を行う。
 不登校を未然に防ぐため、学習支援員や特別支援教育支援員の活用を検討する。また、学校だけではなく、地域や関係機関と連携する手法について検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
60,423	60,423	48,338	12,085	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員については、応募者を面接により選定し、「与那原町臨時職員に関する規則」「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」に基づき、任用しており妥当であり、業務委託については、児童生徒の学習規律の定着と次世代の人材育成を目的としている為、地方自治法第167条の2第1項第2号を適用し、本町にある短期大学と随意契約により選定しており妥当であると判断している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○必要に応じて予算の減額を行うなど適正な執行管理に努めたが、新型コロナウイルスの影響により事業費の5%を超える不用額が生じた。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的に必要であり、合致している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	国際理解人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童の国際的感覚や視点を身に付けることで、外国語への興味・関心を高め、人材育成へ繋げる為に、英語指導助手を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,922	9,662	12,267	9,320	8,816
		(b) 予算現額	8,922	9,403	12,267	7,752	8,455
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 259	0	▲ 1,568	▲ 361
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	8,922	9,403	12,267	7,752	8,455
		B. 執行済額	7,785	9,400	12,263	7,405	8,232
		うち交付金充当額	6,228	7,520	9,810	5,923	6,585
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	87.3%	100.0%	100.0%	95.5%	97.4%
	予算の状況の説明	当初計画では、英語指導講師の報酬費として予算を組んでいたが、派遣可能な事業所が見つからず、執行ができなかったため英語指導助手に係る報酬費及び共済費へと組み換えを行ったため361千円の減額とした。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	HR1年度	
	英語指導助手 2名配置	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
		実績	2名	2名	2名	7時間45分:2名 6時間:1名	
	英語指導講師派遣	目標	()	()	()	(1名)	
実績					0名		
達成状況説明	英語指導講師を派遣可能な事業所が見つからなかったため、英語指導助手(ALT)を計3名雇用した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	児童生徒の外国語への興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実績		72.5%	60.4%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	児童へのアンケートを行った結果「外国語への興味・関心が高まった」と回答した児童は60.4%と目標を下回った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	アンケートは、小学校3年生及び5年生に行った。 「外国語への興味・関心が高まった」と回答した児童の内訳は、3年生が75.0%、5年生が44.1%だった。	アンケートは無記名形式で実施しているため、改めて児童に対し外国語授業に対する意見を聴取し、問題点を洗い出す必要がある。
今後の取り組み方針		
外国語授業における児童の要望や不安・不満を確認し、授業の方法等の効率化を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	8,232	8,232	6,585	1,647	0
<pre> graph LR A[与那原町 8,232千円] --> B[報酬 7,201千円] A --> C[共済費 1,031千円] B --> D[個人(2人) 7,201千円] C --> E[社会保険事務所 1,031千円] </pre> <p>〔 英語指導助手2人の報酬 〕</p> <p>〔 英語指導助手2人の社会保険料 〕</p>					
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手については、面接により選定し、「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」に基づき、任用しており妥当であると判断している。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的に必要であり、合致している。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	豊かな心の教育推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成30~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
事業内容	児童生徒の創造力や表現力などの豊かな感性や、自主性、柔軟性などの豊かな心を育むために、著名人等による児童生徒向けの講演会を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a) 当初予算額	3,000	450			
		(b) 予算現額	450	45			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,550	▲ 405	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	450	45	0	0	0
		B. 執行済額	450	45			
		うち交付金充当額	360	36			
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	当初県外からの講師を予定していたが、学校側と細かい日程調整が可能な県内の講師を招聘することが出来たため、報償費405千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	小学生向けの講演会(2小学校)	目標	(2小学校)	(2小学校)	()		
		実績	2小学校	2小学校			
	中学生向けの講演会(1中学校)	目標	(1中学校)	(1中学校)			
		実績	1中学校	1中学校			
達成状況説明	教育委員会で選定した講師による講演会を各小中学校1回ずつの計3回実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R年度)	
		目標	()	(80%)	(80%)	()	()
	実績		86.60%	82.67%			
	進捗状況説明	講演会を聞いて「将来への夢や希望を持つきっかけとなった」児童・生徒の割合は82.67%と目標を上回った。					

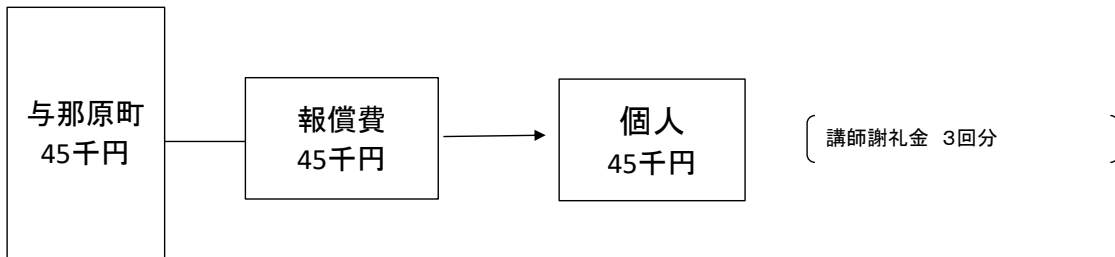
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	予定どおり各校において講演会を実施した。成果目標については、目標を上回った。	その年度の児童生徒の実態や、学年別による児童生徒の発達段階に応じた講演の実施を行う必要がある。

今後の取り組み方針

児童生徒の発達段階等に応じた講演の分野や講師の選定、実施時期等の計画や次年度に向けての反省など学校現場と綿密に連携を図り、児童生徒の豊かな心を育む講演の実施に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
45	45	36	9	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法(講師の選定)については、事業の目的に沿った講演内容、多数の学校現場で講演実績のある講師の中から、教育委員会で選定しており、妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的に必要であり、合致している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-④	体力向上推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成30~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	児童生徒の基礎的な体力の向上や、たくましい体の育成のために水泳指導員の派遣を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
		(a) 当初予算額	640	560				
	(b) 予算現額	640	499					
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 61					
	(d) 繰越額	—	—					
	A. 計(b+d)	640	499					
	B. 執行済額	560	499					
	うち交付金充当額	448	399					
	次年度繰越額	0	0					
	執行率(%) (B/A)	87.5%	100.0%					
予算の状況の説明		水泳指導員の派遣回数の削減により、当初見込み額から61千円減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H30年度	H31年度	R2年度	R3年度		
	3、4年生の水泳授業へ水泳指導員の派遣(2小学校、各学年10授業)		目標 (2小学校、各学年10授業)	(2小学校、各学年10授業)	()	()		
			実績 2小学校、各学年10授業	2小学校 3年:7授業、4年:10授業				
達成状況説明		各小学校(2校)の3、4年生の水泳授業へ水泳指導員を3年生は7授業、4年生は10授業派遣した。3年生については、前年度に目標を大幅に達成していたことから、水泳指導員の派遣回数を減らし、効率的に事業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)	
	3年生:水に浮くことができる50%以上		目標	()	(50%)	(50%)	()	()
			実績		93.9%	94.2%		
	4年生:25メートル泳ぐことができる30%以上		目標	()	(30%)	(30%)	()	()
			実績		36.2%	34.2%		
	進捗状況説明		小学校3年生の水に浮くことができる児童について、目標の50%を大きく上回る94.2%を達成。小学校4年生の25メートル泳ぐことができる児童について、目標の30%を上回る34.2%を達成。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	小学校3年生について、水泳指導員の派遣回数を減らしたが目標を大幅に上回って達成した。	小学校3年生については、派遣の必要性の見直しを検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
小学校3年生に対する水泳指導員の派遣の必要性について、学校関係者等と協議し、効率的な授業運営に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	499	499	399	100	0
<pre> graph LR A[与那原町 499千円] --> B[委託料 499千円] B --> C["(有)寿ランド 499千円"] subgraph D [] C end D --- E[水泳指導者派遣委託料] </pre>					
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○与那原町契約規則に沿って適正に選定した。 ○予算規模はほぼ見込み通りの執行額であり、事業内容に見合った適正な規模である。 ○費目・使途については事業目的に必要であり、合致している。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。			
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		与那原町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2-⑤	学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の学力向上及び人材育成の為に、わかりやすい授業を行う為のタブレットを整備する。教師のICTを活用した授業支援及び児童生徒のICT活用を支援する為に、情報教育支援員を各小学校へ配置する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	55,913	49,611	16,076	6,987
	(b) 予算現額	51,808	63,133	16,052	6,987	9,228
	(c) 増減額(b-a)	▲ 4,105	13,522	▲ 24	0	2,520
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	51,808	63,133	16,052	6,987	9,228
	B. 執行済額	48,354	62,183	15,163	6,687	9,077
	うち交付金充当額	38,683	49,746	12,131	5,349	7,261
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	93.3%	98.5%	94.5%	95.7%	98.4%
予算の状況の説明	当初計画(電子黒板の整備)の他に、デジタル教科書の購入を追加したため、予算増となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H31活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	情報教育支援員 2人配置	目標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)
		実績	2人	2人	2人	2人
	電子黒板一式(小学校2台、中学校1台)	目標	(2小学校)	(2小学校増設クラス)	()	(2小学校(2台) 1中学校(1台))
		実績	2小学校	2小学校増設クラス		2小学校(2台) 1中学校(1台)
	夏休みのパソコン講座実施(10回)	目標	(10講座 受講生80名)	(10講座 受講生80名)	(10講座 受講生80名)	(10講座 受講生80名)
		実績	10講座 受講生58名	12講座 受講生205名	12講座 受講生159名	12講座 受講生80名
	【参考指標】 タブレット(2小学校、1中学校)	目標	()	(2小学校(50台) 1中学校(30台))	(2小学校(30台) 1中学校(10台))	()
		実績		2小学校(50台) 1中学校(30台)	2小学校(30台) 1中学校(10台)	
【参考指標】 指導者用デジタル教科書一式	目標	()	()	()	(2小学校(一式×2))	
	実績				2小学校(一式×2)	
達成状況説明	<p>情報教育支援員を2小学校に1名ずつ計2名配置し、計画的に情報教育の指導に活用した。計画通り、小中学校に電子黒板計3台の整備を行った。</p> <p>夏休み期間中に行われた情報教育講座においては、目標の10講座の80名に対し12講座で80名の受講者となった。前年度より低い数値となったが、定員を50名から20名に変更し、個々に対応したより丁寧な指導を行える体制となった。</p> <p>計画通り指導者用デジタル教科書を整備した。</p>					

成果目標 (指標) 及び進捗状況	RI成果目標(指標)	基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)	
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標	()	(80.0%)	(80.0%)	(80.0%)	()
		実績		96.7%	92.0%	95.1%	
	教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合:80%以上	目標	()	(80.0%)	(80.0%)	(80.0%)	()
実績			91.7%	100.0%	100.0%		
進捗状況説明	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合は、95.1%と目標値を上回った。教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合が前年度と同じく100%となった。安定してICT機器を活用した指導が行えるようになり、児童生徒の理解度も上がったと考えられる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>予定通り電子黒板の整備を行ったが、特別支援学級の増加により、電子黒板が不足している学級があるため学びの環境に差が発生している。</p> <p>プログラミング教育が始まったことにより情報教育指導の問題点等が見つかると思われるため、教員間による情報共有・情報支援員の実践的な指導が必要になると考えられる</p>	<p>学びの環境を整えるためすべての教室に電子黒板の整備を行う。</p> <p>統一した教育を受けれるよう、プログラミング教育における問題点等の改善のアドバイス、情報共有等を行う。</p>
今後の取り組み方針		
GIGAスクールにより情報教育環境が整う見込みのため、環境を活用していけるよう検討を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
9,077	9,077	7,261	1,816	0
<p>〔 情報教育支援員2人の報酬 〕</p> <p>〔 情報教育支援員2人の社会保険料 〕</p> <p>〔 小中学校電子黒板備品購入 〕</p> <p>〔 小学校デジタル教科書購入 〕</p>				

資金の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員については、応募者を面接により選定し、「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」に基づき、任用しており妥当であり、備品購入については、指名競争入札により選定しており妥当である。 ○不用額は事業費の5%以下であり概ね適正な規模であったと判断した。 ○費目・用途については事業目的に必要であり、合致している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	ほっとハート子育て応援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 0歳児の待機児童の解消を目的とする。定員増による安全性の確保をしつつ、良好な保育環境を維持するために看護師を配置する。 看護師を雇用し、0歳児を10人以上受け入れる保育園に対し、雇用経費の一部を助成する(月額上限 50千円)。 						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	2,100	2,100	2,700	3,000	1,200
		(b) 予算現額	2,100	1,800	1,800	950	600
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 300	▲ 900	▲ 2,050	▲ 600
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		2,100	1,800	1,800	950	600
	B. 執行済額		1,650	1,678	1,750	700	600
	うち交付金充当額		1,320	1,342	1,400	560	480
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		78.6%	93.2%	97.2%	73.7%	100.0%
予算の状況の説明		・当初2施設の事業実施予定だったが、1施設のみ事業実施となり、第3回変更交付申請に伴い600千円の減額としている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	認可保育所への看護師配置7施設中1施設(各1名配置)	目標	(4施設)	(5施設)	(2施設)	(1施設)	
		実績	3施設	3施設	2施設	1施設	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、2施設に看護師を各1名配置予定だったが、1施設に変更となった。 ・看護師又は准看護師の求人をしてしたが、どちらも採用が見込めなかった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	・看護師を配置したことによる0歳児待機児童解消数3人以上	目標	()	(15人以上)	(6人以上)	(3人以上)	()
		実績		12人	6人	3人	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	・本事業により看護師を配置した保育園では、3人の待機児童解消に繋がった。						

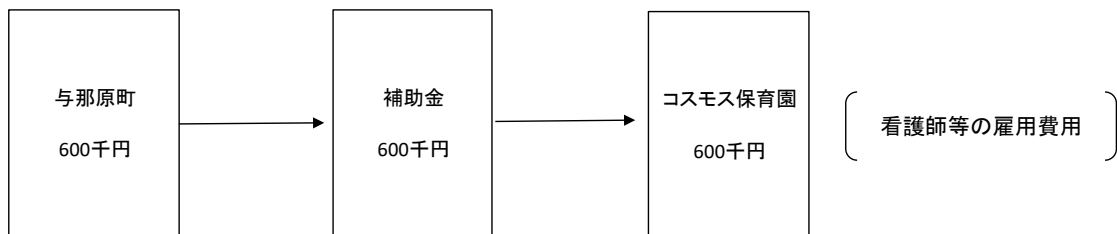
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の検証を踏まえ、准看護師の採用を促したが、応募状況が芳しくなかった。 ・医療機関と賃金面を比較すると、保育所での勤務を選択する者は少ないと思われる。 ・興味はあるが、保育士としての技量に不安を感じている者もいると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師等の募集方法等について、検討する必要がある。 ・看護師等の処遇面について、改善が必要である。 ・看護師等が安心して働ける職場環境づくりを行う必要がある。

今後の取り組み方針

・各園において、准看護師も含めた求人を促す。
 ・各園において、看護師等の特殊手当等の加算について検討を促す。
 ・各園において、看護師等に対するスキルアップ研修の取組を検討し、求人広告に研修の充実を記載するよう促す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
600	600	480	120	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、補助金交付規則に基づき、町内すべての法人認可保育園へ周知し、事業実施保育園を選定しているので妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模(補助金額)についても保育士給与と看護師給与の差額(月額5万円程度)となっており、適正な予算規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は、保育園からの支出書類(給与明細)等を確認しており、事業目的に即した真に必要なものに限定されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	3-②	公立幼稚園・保育所等保育環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ
担当部課名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実
事業内容	保護者の負担軽減を図るため、公立幼稚園における延長保育を実施する。延長保育に伴い必要となる給食を安心・安全に提供するため、配膳支援員を配置する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	4,497	18,150	12,972	1,170
	(b)予算現額	4,497	18,150	11,674	1,170	886
	(c)増減額(b-a)	0	0	▲1,298	0	0
	(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)	4,497	18,150	11,674	1,170	886
	B.執行済額	4,208	17,886	11,569	432	764
	うち交付金充当額	3,366	14,308	9,255	345	611
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	93.6%	98.5%	99.1%	36.9%	86.2%
予算の状況の説明	年度途中には退職などにより執行状況が低い月もあったが、最終的には概ね予定通り80%以上執行することが出来た。さらにコロナウイルスの影響を受けなければ更に高い執行率となったと考えられる。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	公立幼稚園2園5クラスに配膳支援員を配置し、給食時を安心安全に供給する。	目標	()	()	(7クラス)	(5クラス)
		実績			4クラス	5クラス
	【参考指標】 幼稚園給食配膳支援員配置	目標	(4名配置)	(3名配置)	()	()
実績		4名配置	3名配置			
達成状況説明	当初の予定通り配膳支援員を確保する事が出来た為、両園に2名ずつ配置する事ができた。その中で、給食配膳及び食育指導を行う事で、働く世代の保護者の家庭での負担軽減を図る事を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		目標	()	(負担軽減 80%)	(負担軽減 80%)	(負担軽減 80%)
	実績		負担軽減 70.8%	負担軽減 71%	負担軽減 79%	
	目標	()	()	()	()	()
	実績					
進捗状況説明	給食時に支援を行うことで、食事マナーや配膳の改善がみられるが、各々の家庭よって改善度のとらえ方の違いからアンケート結果では目標値には達していない部分が見られた。					

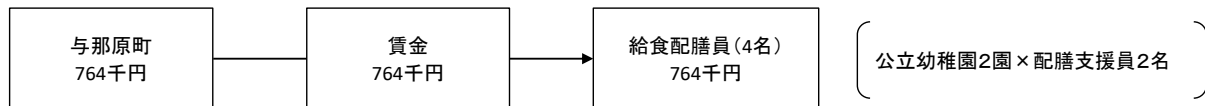
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 配膳支援員の配置について、最終的には目標としていた人員を配置する事が出来たが、支援員の途中退職などがあり年間を通して配置する事が出来なかった。 食育指導等で改善を図るには、園児それぞれの家庭での養育方針や、園児それぞれの食事のペースなども知る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して公立2園への適切な数の配膳支援員配置に努める。 支援員間で情報共有することで、園児達の食に対する状況等を更に把握する事が出来る。 食育月間などを設ける事で、保護者に対しても食と向き合う機会を設ける事が出来ると考えられる。

今後の取り組み方針

- 配膳支援員を2園に配置するため、従来の求人方法に加え、予め年間を通して働く事の出来る人材を確保する事が重要となる。
- 支援員間で定期的に情報共有を行う事で、園児が食とより向き合える環境作りを目指す。
- 保護者に対する食育意識の喚起を行う為、献立表や食育月間の展示等を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
764	764	611	153	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 選定については、ボランティア組織等に公募し、「与那原町賃金職員管理規定」に基づき任用しており妥当である。 予算規模については、前述の規定に基づき算定しており、適正な規模である。 費目・用途については、事業目的に必要であり合致。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

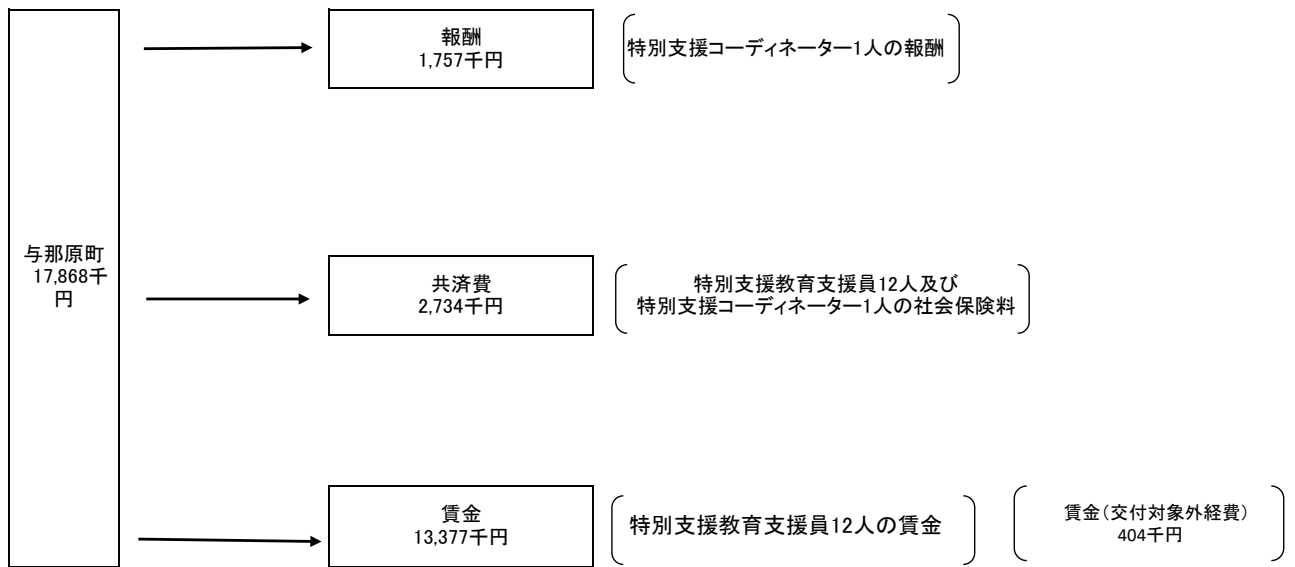
市町村名	与那原町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	きめ細かな児童生徒支援事業(幼稚園)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7	
担当部課名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	特別な支援を要する児童に対し支援することにより、幼稚園における集団生活での対応や先に控える小学校生活へのスムーズな促しを図るために個に応じたきめ細かな支援を行う為の特別支援教育支援員及び特別支援コーディネーターを配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		12,291	21,027			
			17,097	20,079			
			4,806	▲ 948	0	0	0
			—	—			
			17,097	20,079	0	0	0
		B. 執行済額					
		15,882	17,868				
		うち交付金充当額					
		12,705	14,295				
	次年度繰越額						
	0	0					
	執行率(%) (B/A)		92.9%	89.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	
	予算の状況の説明 特別支援教育支援員を12名、特別支援コーディネーターを1名配置で行っていたが、特別支援教育支援員が12名配置出来なかった月があったので減額を行った。 さらに、コロナ感染症対策の影響で幼稚園を臨時休園させた事により執行率89%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	特別支援教育支援員 12名配置	目標	(12人)	(12人)	()	()	
		実績	12人	11人			
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	欠員(1名)が生じた月があり、当初の計画どおり常時12名の特別支援教育支援員を配置する事が出来なかったが、本事業への影響も少なく、対象園児の様子を常に見守り状況に応じた支援を通して、本事業の目的を達成する事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	対象となる園児の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度80%以上	目標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実績		93.8%	100%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	特別支援員への保護者の満足度100%と、目標を達成した。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には目標を達成しているが、両園での会議等を行う事により、より園児に沿った支援の在り方について意見がうかがえる。 ・どの園児に対しても適切な支援を行う必要がある為、常に支援員間で情報を共有する必要がある。 ・年間を通して働く事の出来る人材の確保が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、満足度100%を達成したが、今後も園児に沿った支援を行うためには、保護者と情報を共有できる関係づくりが不可欠である。 ・園全体での障害に関する勉強会や情報共有会等を定期的に行う。そうする事で特別支援員だけではなく幼稚園職員一人一人の技量アップにもつながると考えられる。 ・人材確保のため、従来の方法に加え、新たな方法を検討する事で、より専門的な職員を必要とする。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・園や家庭において対象園児がどのように過ごしているか等の情報をより密に共有していく事で、不得意な部分の克服や、得意な部分を磨く事が出来、支援を通して園児がより成長していく機会が設けられると考える。 ・支援に関する専門的な知識を持ったコーディネーター等との勉強会を行う事で、支援員の専門的知識の向上につながる事が出来ると考えられる。 ・年間を通して働く事の出来る人員を確保する事を目標として、求人募集を募る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

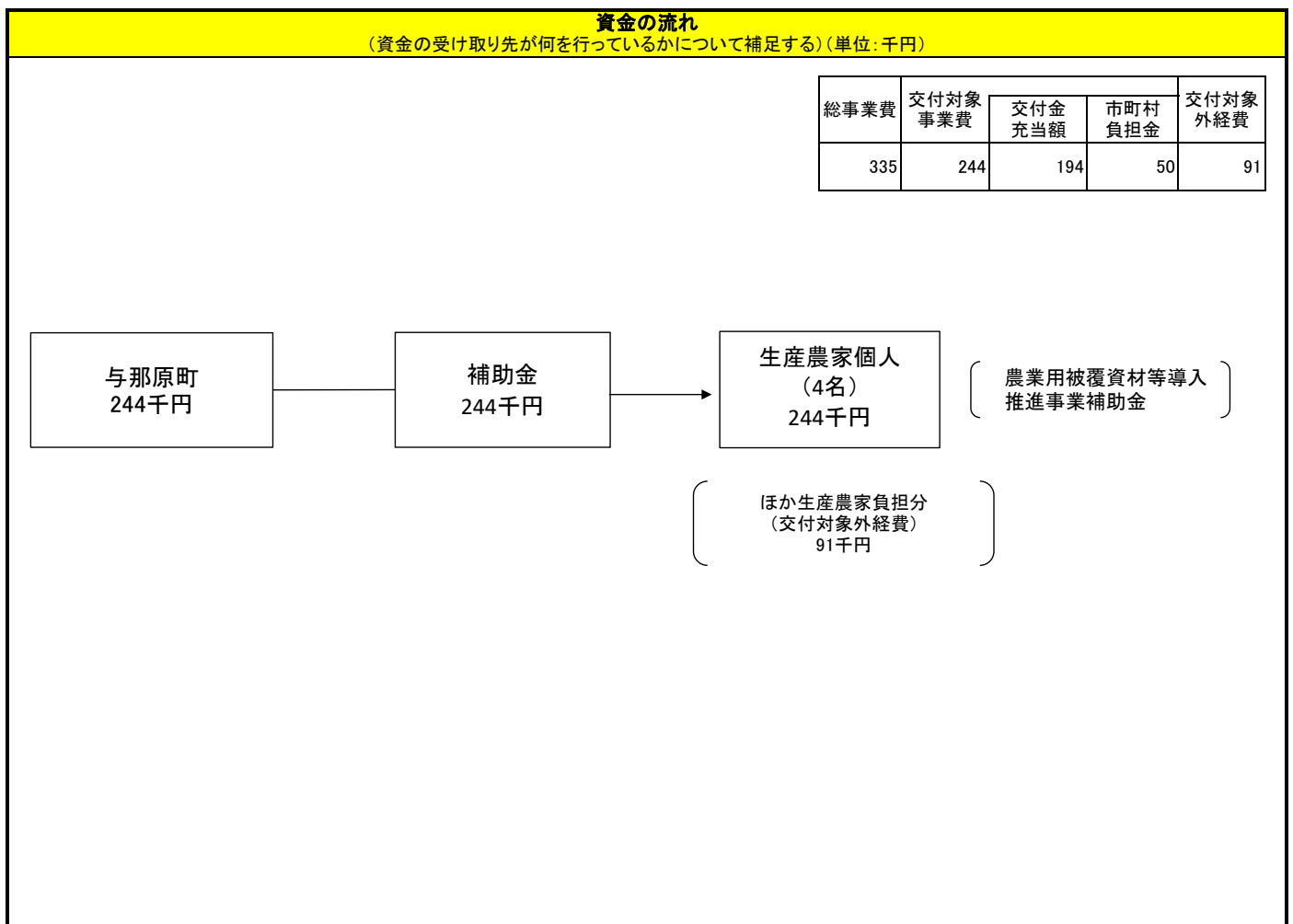
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,273	17,868	14,295	3,573	404



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・選定については、応募者を面接により選定し、「与那原町臨時職員に関する規則」に基づき任用しており妥当。 ・予算規模については、前出の規則に基づき算定しており、適正な規模である。 ・費目・使途については、事業目的に必要であり合致している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-① 農業用被覆資材等導入推進補助事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-(ア)		
	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		沖繩振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(6)		
担当部課名	まちづくり課		事業実施(予定)年度	平成29~令和3年度			
事業内容	沖縄では、地理的な要因により、台風の襲来、塩害、強い日射等により農作物に大きな被害がでている。その為、台風等による自然災害の被害軽減を図るとともに、病害虫の発生を抑制するための農業用被覆資材等を導入する経費に対して補助を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a) 当初予算額	1,000	1,000	500		
	(b) 予算現額	1,000	1,000	500			
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0			
	(d) 繰越額	-	-	-			
	A. 計(b+d)	1,000	1,000	500			
	B. 執行済額	716	566	244			
	うち交付金充当額	572	453	194			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	71.6%	56.6%	48.8%			
予算の状況の説明		・不用額256千円は、本補助を利用しての被覆資材購入希望者が少なかった為である。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	台風等の自然災害、病害虫等の被害軽減を図るため被覆資材導入推進を図る。	目標	(7件)	(8件)	(7件)	()	
		実績	6件	7件	4件		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	・台風等の自然災害や病害虫等の軽減により、ビニールハウスやネット等を設置する4件の農家に対して、補助を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値
			目標	()	()	(ゴーヤ2,500 マンゴー-1,300)	(ゴーヤ2,562 マンゴー-4,695)
	実績			ゴーヤ1,885kg マンゴー-2,805kg	ゴーヤ 888kg マンゴー-4,182kg		
	【参考指標】 被覆資材の導入により台風等の自然災害、病害虫等の被害を軽減し、ゴーヤ、インゲンでは平成27年度の実績より4%、マンゴーについては、平成30年度の実績より2%A秀品率向上を図る。	目標	()	()	マンゴー 8% ゴーヤ35% インゲン25%	()	()
		実績			マンゴー 2.5% ゴーヤ 90% インゲン 84%		
進捗状況説明	ゴーヤは、R1年度目標2,562kgに対し、888kgの実績で1674kg目標に達しなかった。マンゴーについても、R1年目標4,695kgに対し、4,182kgの実績で513kg目標に達しなかった。R1年度は、沖縄本島直撃の台風は無かったものの、頻りに接近してくる台風は多々あった。また例年に無い猛暑のため出荷量に多少影響があったと考えられる。 事業実施に伴い農家の意欲も高まり全体的に生産量の増加につながっている。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄本島に頻繁に接近する台風に備えた防風対策が不十分だった。 ・出荷量減少に影響を及ぼしたと考えられる猛暑日への対策が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウスを守る防風柵の設置検討や、暴風ネット設置、風対策を考慮した骨組や下地材導入の検討が必要。 ・防風対策に加えて、今後は喚起設備や定期的に窓を開けるなど(換気)、高温対策を検討する必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・農家やJAとの調整も踏まえながら、防風対策に必要な資材等の検討と台風時に被害を最小限にする方策等を検討し、農家に周知する。 ・水管理の徹底や遮光資材の導入等の高温対策について、農家及びJAと連携して協議する。 		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、募集により応募者の中から与那原町内農業従事者が確認をおこなっている
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の約1%であり、概ね適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については、補助金交付規則に定める補助率に基づいており、負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点からその必要性について、額の確定時に支出等の書類により確認、適正である。

市町村名		与那原町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	5	与那原町海外友好親善大使人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア 国際ネットワークの形成と 多様な交流の推進
担当部課名	総務課	事業実施 (予定)年度	平成27~令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-7
事業内容	与那原町出身の海外移住者子弟を本町で研修生として受け入れ、日本語研修及び陶芸や空手、三線といった研修等を行い、本町の文化と歴史を学ぶ。また、小中学生との交流会を通して、小中学生に国際交流について関心を持たせる。 本町での研修成果を活かし、本町及び本県と移住先国とのネットワークを強化し、PR大使として友好親善並びに沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材を育成する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の 状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	3,977	3,009	2,047	2,296
	(b) 予算現額	2,817	2,011	2,005	1,815	1,901
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,160	▲ 998	▲ 42	▲ 481	▲ 874
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	2,817	2,011	2,005	1,815	1,901
	B. 執行済額	2,542	1,623	1,949	1,713	1,880
	うち交付金充当額	2,033	1,298	1,559	1,370	1,503
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	90.2%	80.7%	97.2%	94.4%	98.9%
予算の状況の説明	滞在期間が予定より短くなったこと等により滞在補助金751千円を減額、また、研修の実績確定に伴い報償費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料を合わせて123千円を減額した。合計で874千円を減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	研修生の受入れ 2名	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)
		実績	2名	2名	2名	2名
	交流会の実施 2回	目標	(2回)	(2回)	(2回)	(2回)
		実績	6回	4回	10回	10回
	帰国後の研修報告会:1回	目標	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)
		実績	1回	2回	1回	1回
	与那原町における交流会でのアンケート実施	目標	(アンケート実施)	(アンケート実施)	(アンケート実施)	(アンケート実施)
		実績	アンケート実施	アンケート実施	アンケート実施	アンケート実施
帰国後の研修報告会でのアンケート実施	目標	(アンケート実施)	(アンケート実施)	(アンケート実施)	(アンケート実施)	
	実績	アンケート実施	アンケート実施	アンケート実施	アンケート実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 海外移住者子弟研修生受入については、ペルーから2名の研修生を受け入れた。 児童生徒・町民との交流の機会については、町内小学校2校と中学校1校を訪問し、異文化交流を図ることができた。各行政区の夏まつりや町青年会、町職員など地域との交流も積極的に行い、研修生の日本語向上、地域住民の移民に対する知識向上及び国際交流への関心を深めることができた。 交流会内訳:①研修生歓迎会、②与原区夏祭り、③青年会BBQ交流会、④町陸上大会、⑤町敬老会、⑥町ジュニアリーダー研修同行、⑦与那原小学校交流会、⑧与那原中学校交流会(給食も試食)、⑨与那原東小学校交流会、⑩研修報告会 帰国後の研修報告会については、在ペルー与那原町人会で研修生が三線の演奏などの研修報告を行った。報告では、研修で学んだことや経験したことを話し、町人会の発展に貢献したいと抱負を述べた。町人会員にとっては、研修生を通して故郷与那原町の現状と発展を知ることができ、今後の町人会活動や沖縄文化の継承・発展への新たな一歩となる報告会となった。 					

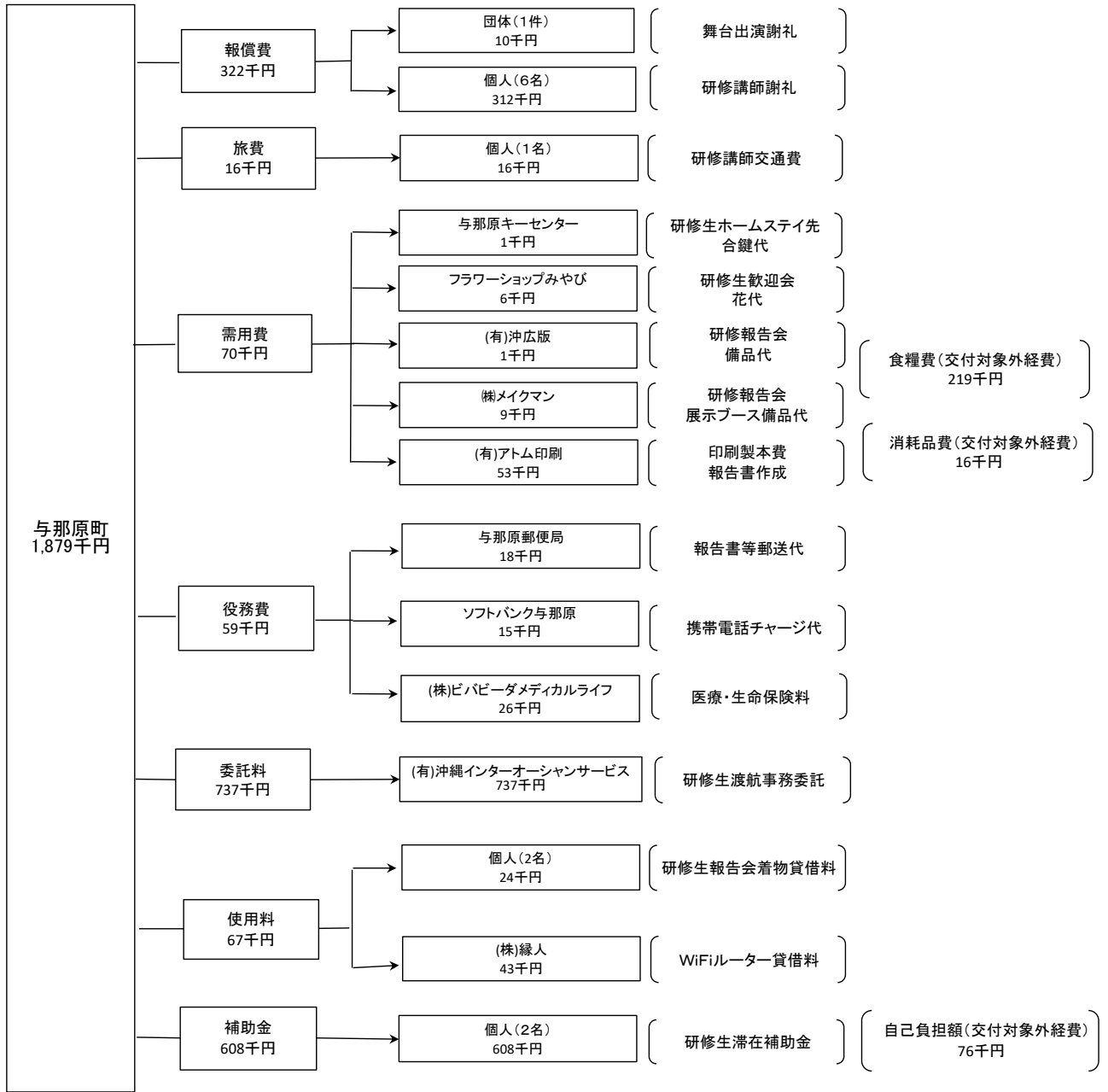
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)	
	与那原町での交流会でのアンケート 国際交流に関心がある人の割合:92%	目標	()	(70%)	(95%)	(92%)	()
		実績		95%	90%	94%	
	帰国後の研修報告会でのアンケート 沖縄・与那原に関心がある人の割合:100%	目標	()	(70%)	(95%)	(100%)	()
実績			100%	100%	100%		
【参考指標】 PR大使としての活動	目標	()	(PR大使)	(PR大使)	(PR大使)	()	
	実績		各国町村会にて 文化普及活動	各国町村会にて 文化及び当研修 事業の普及活動	各国町村会にて 文化及び当研修 事業の普及		
進捗 状況 説明	<p>・町内小・中学校での交流会を通してアンケートを実施した。442名からの回答を集計した結果、94%の児童生徒から「国際交流に関心がある」との回答を得られた。昨年度90%を割っていた中学校でのアンケートの結果を含め、全学校で数値が改善した。</p> <p>・帰国後の研修生によるアンケート実施については、報告会に来た全員から沖縄・与那原に興味があるとの回答を得ることができ、沖縄文化や当研修事業へ関心度を高めることができた。</p> <p>・PR大使としての活動では、研修で得た知識や経験を活かし、町人会に役員として中核に関わり、沖縄・与那原の文化普及活動に努めている。</p>						

取組 の 検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果の数値改善について、①交流会に先だって移民についての説明チラシを児童向けに配布したこと、②集中して話が聞けるように会場を変更したこと、が作用したと考える。 ・ビザや在留資格認定証明書に一定の時間がかかるため、研修生決定から入国までがショートな場合に事務負担の増大や、受入れが間に合わない恐れがあった。 ・H29年より文化研修の科目数を増やしているが、日々のスケジュールがタイトであるため、研修生が体調を崩しやすく、交流会へ時間を割けない場合も発生することが予想される。 ・研修生の推薦が、ここ2年同国(ペルー)からのみであり、他の国からの推薦はあがらなかった。 ・PR大使としての活動は、過去研修生が積極的に町人会や県人会に関わっており、沖縄・与那原の文化振興に寄与することができている。 ・研修生の沖縄及び現地に帰ってからの活動内容を町民に十分な周知ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確実な受入れを図るため、研修生決定をより早期に行う必要がある。 ・研修科目について、研修生の要望を踏まえつつ、滞在期間におけるそのウェイトを再考する必要がある。 ・研修生の推薦について、推薦できない状況を確認し、各国からより広く推薦が上がるようにする必要がある。 ・研修生の各国町人会での活動を広く広報する必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・研修生決定時期について、各国町人会及び県人会への声掛けや研修生決定を早期に行い、事務負担の平準化やスムーズな受入を行う必要がある。 ・研修科目の選考について、研修生の自主学習の時間を事前に盛り込みスケジュールを組むことで、研修生の体力的負担の軽減を図る。 ・学校での交流会について、移民についての事前紹介や、よりよい交流のための場所の再考などを引き続き行う。 ・研修生の活動状況の周知について、研修生が現地で報告や活動していることを町広報誌やホームページで随時発信し、町民と研修生及び各国町人会とのネットワーク強化を図る。 		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,190	1,879	1,503	376	311



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業については、レート価格の変動及び社会情勢等により渡航費を算出することが困難であるため、南米渡航コーディネートを専門とする3業者に見積もりを依頼し、随意契約を行った。 ○予算規模は、渡航費を3社見積りし、比較検討していることや、講師報酬費を町規程に基づいていること等から適正である。 ○受益者である研修生の個人負担分は、与那原町地域振興推進事業交付金交付要綱に基づいており、妥当である。 ○費目、用途については、精算段階で検査を実施し、目的に即し必要なものと判断した。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

資金の流れ、費目、用途の点検評価

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6	走る・よなばるPR事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(エ)		
担当部課名	税務課	事業実施(予定)年度	平成29~令和元年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	オリジナルナンバープレートを活用し、本町の観光資源等を町内外へアピールするため、公募により選定された絵柄を基にオリジナルナンバープレートを製作する。製作に当たっては、従来の標識にはない「発光塗料」を使用し、交通安全の一助となるよう工夫し、付加価値を高める。事業の周知を図るため、町広報誌や町HP等を活用しPRを行う。また、周知度についてアンケートによる調査を行い、PR方法について検証する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a) 当初予算額	1,414	199	171		
	(b) 予算現額	1,356	199	171			
	(c) 増減額(b-a)	▲ 58	0	0			
	(d) 繰越額	-	-	-			
	A. 計(b+d)	1,356	199	171			
	B. 執行済額	1,336	182	171			
	うち交付金充当額	1,068	145	136			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	98.5%	91.5%	100.0%			
予算の状況の説明	事業計画どおりに執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	与那原町原動機付自転車等オリジナル標識を350枚製作する	目標	(1,500枚)	(400枚)	(350枚)	()	
		実績	750枚	400枚	350枚		
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	当初計画に基づき予定していた事業内容をすべて実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	イベント会場において観光客と地域住民へのアンケートを実施。オリジナル標識での与那原町の認知度(80%以上)を含めアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	(50%)	(80%)	()
		実績			40%	69%	
【参考指標】PR活動 四半期ごとに町広報誌(全世帯配布)や町HP、他のHPへPR記事の掲載を行い、また税務課窓口ではサンプルを掲示し来庁者に対してPRを行った。町内の電光掲示板へ掲載した。	目標	()	(2回開催) PR活動4回	(4回HP掲載やサンプル掲示は常時)	(4回HP掲載やサンプル掲示は常時・電光掲示板へ掲示1回)	()	
	実績		選定委員会2回開催 PR活動4回	広報誌4回HP掲載やサンプル掲示は常時	広報誌4回・HP掲載やサンプル掲示は常時・電光掲示板へ掲示1回・他のHPへの掲載		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 町内イベントにおける来場者(観光客含む)へのアンケート調査において認知度は69%と目標の80%を下回ったが、前年の40%より増となった。 広報誌4月号、8月号、2月号、3月号に4回掲載した。 町のHPへの掲載やサンプルの掲示は常時行うことができた。 町内にある主要道路にある電光掲示板において与那原大綱曳き終了後に1週間程度PR掲示を行った。 (一財)日本経済研究所の「日経研調べご当地プレート」のHPへの掲載(R2年3月より) 						

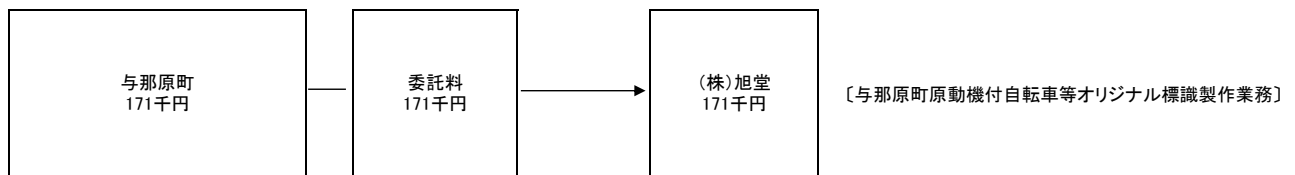
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> アンケート回答のうちナンバープレートの印象について「与那原大綱曳まつり」が69%、「大綱曳」が24%となっておりオリジナルナンバープレートから受ける印象は目的が正確に伝わっていると言える。 今回のアンケート回答により、「見たこともなく、知らない」と回答した者が59%いたが、回答者の年齢が10代～20代が8割、また7割が女性であったため、PRの方法について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 若年層や女性がオリジナルナンバープレートを見かける機会を増やすためPRの方法について性別・年齢に関係なく広範囲に周知できる方法を検討する。 オリジナルナンバープレートの交付数を増やし、見かける機会を増やすため、標準標識からの標識交換を推進していく必要がある。

今後の取り組み方針

・事業の周知はこれまでのPR方法に加え、主要道路交差点沿いにある大型電光掲示板にて実物の映像を流すことで、より印象に残る方法でPRを行う。
(昨年は県道上にある文字のみの電光掲示板を使用。また、アンケート回答のうち与那原町内で立ち寄るスポットについて町内3ヶ所の公園が多数であり、その内一つの公園前に大型電光掲示板が設置されている。周辺には複合商業施設やガソリンスタンド、道向かいにはコンビニがある。)
・名義変更や住所変更の方法についての案内(窓口配布用チラシ)へ周知記事を追記し、軽自動車税の手続きの相談の際に配布、PRを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
171	171	136	35	



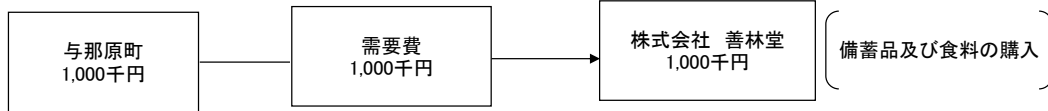
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○H29年度に一般競争入札により金型(1,020,600円)を製作した事業者との随意契約(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号及び与那原町契約規則第25条)は妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容・オリジナルナンバープレートの単価含め、適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7	災害対策備蓄整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-(イ)	
担当部署名	生活環境安全課	事業実施(予定)年度	平成28~令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)	
事業内容	避難施設における被災者の長期避難生活を想定し、非常用食料、寝具類等を計画的に整備し、災害に強いまちづくりの実現を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	(a) 当初予算額	3,678	1,004	1,304	1,847		
	(b) 予算現額	3,678	1,292	1,304	1,004		
	(c) 増減額(b-a)	0	288	0	▲ 843		
	(d) 繰越額	-	-	-	-		
	A. 計(b+d)	3,678	1,292	1,304	1,004		
	B. 執行済額	3,591	1,088	1,059	1,000		
	うち交付金充当額	2,872	870	846	799		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	97.6%	84.2%	81.2%	99.6%		
予算の状況の説明	令和元年度より観光客に特化した内閣府沖縄総合事務局補助事業「沖縄観光防災力強化支援事業」が創設され、観光客に関する備蓄分を削減したため、843千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・非常用食料	目標	(1680食)	(1680食)	(1680食)	(1160食)	
		実績	1680食	1680食	1680食	1160食	
	・粉ミルク	目標	(19缶)	(14箱)	(14箱)	(14箱)	
		実績	19缶	14箱	14箱	14箱	
	・粉ミルク(アレルギー対応)	目標	(1缶)	(1缶)	(1缶)	(1缶)	
		実績	1缶	1缶	1缶	1缶	
	・保存水	目標	(1032本)	(1032本)	(1032本)	(768本)	
		実績	1032本	1032本	1032本	768本	
・発熱セット	目標	()	(27セット)	(27セット)	(27セット)		
	実績		27セット	27セット	27セット		
・発熱剤	目標	()	(100個)	(100個)	(100個)		
	実績		100個	100個	100個		
・使い捨て哺乳瓶セット	目標	()	(27セット)	(27セット)	(27セット)		
	実績		27セット	27セット	27セット		
・ビスケット	目標	()	()	(5箱)	()		
	実績			5箱			
達成状況説明	・非常用食料、保存水等の目標個数を達成。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(27年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
	一時避難者備蓄食料カバー率 R1年度備蓄食糧カバー率80% (H30年度備蓄食糧カバー率60%)	目標	(未整備)	(備蓄食料 1680食)	(備蓄食料 1680食)	(備蓄食料 1160食)	(整備完了)
		実績		備蓄食料 1680食	備蓄食料 1680食	備蓄食料 1160食	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	令和2年度迄の5カ年間計画に対し、令和元年度目標の1,160食を整備した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	【今後懸念される問題点等】 マリンタウン地区への大型MICE施設や国道バイパス整備に伴い利便性の向上により、想定される来訪者、就労人口及び町人口の増加が想定される。	【今後懸念される問題点等】 大型MICE施設、国道バイパス整備により想定される来訪者、就労人口及び人口の増加も検証する必要がある。
今後の取り組み方針		
今後の取組としては、大型MICE施設、国道バイパス整備に伴う来訪者、就労人口及び人口増加の把握を十分に行い、計画的に備蓄品を購入していく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,000	1,000	799	201	



資金の流 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受注業者は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○複数業者見積を参照として積算しており、予算規模は適正である。 ○納品検査を実施し費目・用途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9	与那原町健康づくり支援環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ	
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成29~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成 III-4	
事業内容	本事業は、与那古浜公園内のトラック及び園路のゴムチップ化と健康遊具設置で、より一層の健康増進を図る。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和4年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000		128,966		
	(b) 予算現額	3,500		143,249			
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,500		14,283			
	(d) 繰越額	-		-			
	A. 計(b+d)	3,500		143,249			
	B. 執行済額	3,164		143,211			
	うち交付金充当額	2,531		114,568			
	次年度繰越額	0		0			
	執行率(%) (B/A)	90.4%		100.0%			
予算の状況の説明	トラック内のゴムチップウレタン舗装のみを検討していたが増額(14,283千円)をし、健康遊具施設の設置を行う事ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	トラック内のゴムチップウレタン舗装	目標	()	()	(ゴムチップウレタン舗装)	()	
		実績			ゴムチップウレタン舗装完了		
	健康遊具施設の設置	目標	()	()	(健康遊具7基)	()	
		実績			健康遊具7基		
基本計画の検討(課題の整理、基本方針・基本施策の決定など)	目標	(基本計画の検討、策定)	()	()	()		
	実績	基本計画の検討、策定					
達成状況説明	与那古浜公園の陸上競技トラックのゴムチップウレタン舗装工事を行った。また、健康遊具計7基を設置したことにより、健康な体づくりを達成するための施設整備を行う事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(4年度)	
		・施設の一部供用開始(トラック内にゴムチップウレタン舗装などの完成)	目標	()	(基本計画の検討、策定)	(-)	(一部供用開始)
		実績		基本計画の検討、策定	-	一部供用開始	
	【R4年度成果目標】年間利用者数	目標	()	()	()	()	(1,910人)
		実績					
進捗状況説明	与那古浜公園内の陸上競技トラックのゴムチップウレタン舗装工事及び健康遊具(7基)の整備を行い、年度内に供用開始することが出来ており、町民の健康増進に寄与している。						

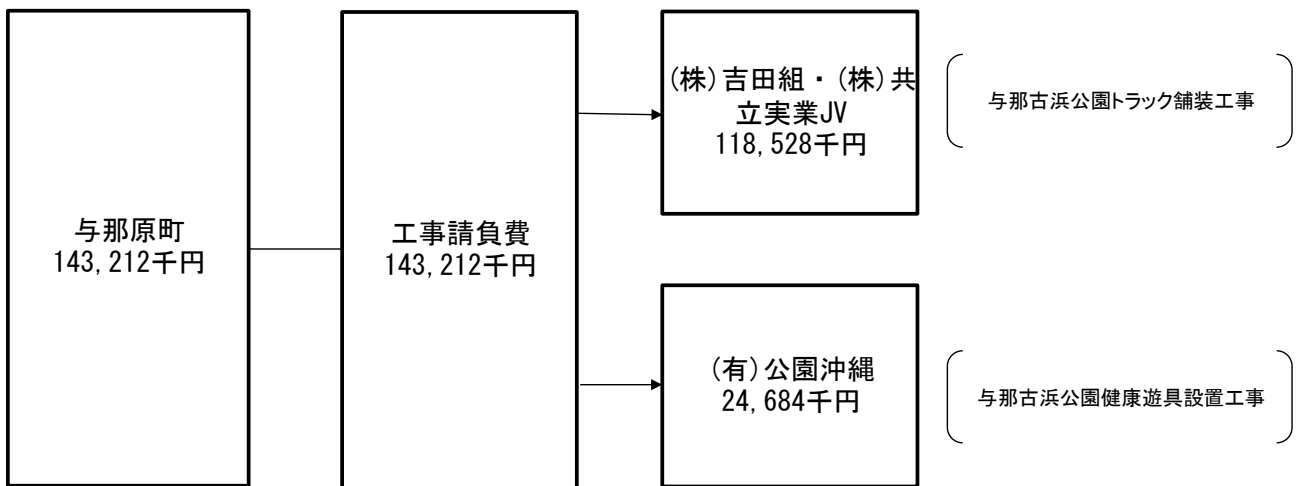
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> トラックや健康遊具の利用以外に、隣接する多目的広場の利用者の増加が想定されることから、利用者同士のトラブル等が懸念される。 供用開始から1年も経過していないことから、今後、多くの町民の方に使っていただく中で、新たなニーズや課題等が発生することが想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者同士のトラブルを防止する為、公園内におけるルールやマナーなどの周知を行う必要がある。 年間を通して多様な方々や用途で活用していく中で見えてくる、改善点や新たなニーズ等に対する検討が必要となる。

今後の取り組み方針

・看板等を設置し、ルールやマナー等について、周知を図っていく。
 ・今後発生しうる新たな課題やニーズ等については、幅広く意見を聴取し、更なる機能向上、効率化等に向けて取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
143,212	143,212	114,568	28,644	0

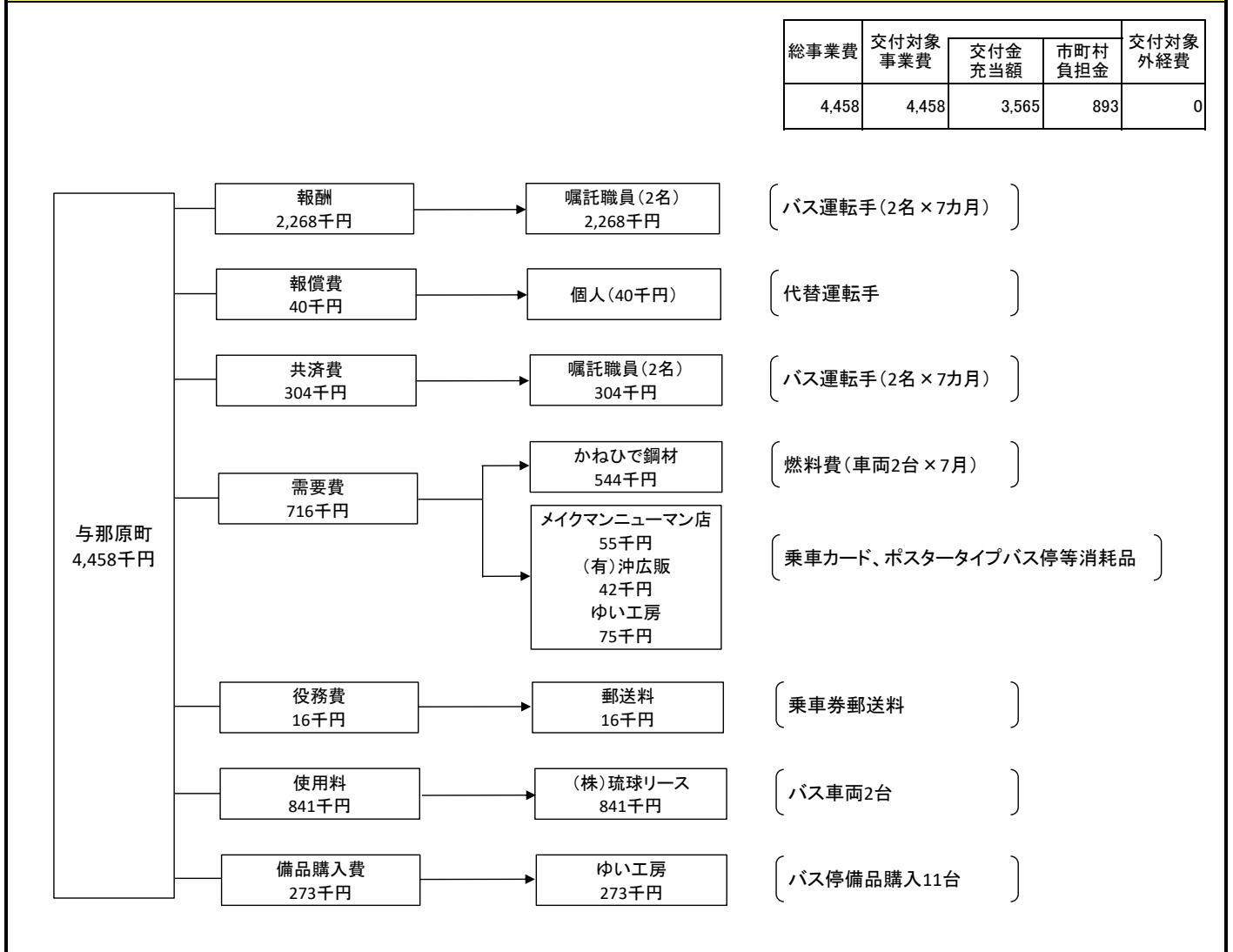


資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は指名競争入札により決定した為、妥当である。 ○予算規模についても、複数業者に見積もりを依頼して定めたものであり、適正な規模となっている。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10	新しい公共交通検討事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ	
担当部課名	福祉課	事業実施(予定)年度	令和元～令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	人に優しい交通手段の確保	
事業内容	高齢者や障がい者の交通弱者に配慮した移動手段を確保するため、福祉型町内バスの導入検討のために実証実験を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		(a)当初予算額	5,801				
		(b)予算現額	5,005				
		(c)増減額(b-a)	▲796	0	0	0	0
		(d)繰越額	—				
	A. 計(b+d)		5,005	0	0	0	0
	B. 執行済額		4,458				
	うち交付金充当額		3,565				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		89.1%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		備品購入費(バス停)を当初の置き型より、ポスタータイプへ一部変更となったため403千円を減額した。不用額941千円については、共済費、燃料費、消耗品費における見込数量の減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	福祉型町内バスの実証実験の実施	目標	(実証実験実施)	()	()	()	
		実績	実証実験実施				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	平成31年4月より車両(2台)の確保(リース)、コース選定、バス停設置、嘱託員職員(運転手)の採用、住民への周知案内を行い、令和元年10月より町内バス実証実験の実施を開始した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	需要や課題等の実態把握(令和2年度まで事業実施予定)	目標	()	(実態把握)	()	()	()
		実績		実態把握の完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	乗車数やアンケートにより、需要や課題等の実態把握ができた。引き続き令和2年度も事業継続し、本格導入に向けての更なる実態把握に努める。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本実証実験は車両2台で行い、コースを町内32カ所のバス停を西まわりと東まわりで設定した。1周あたりの運行時間が2時間15分かかるため、1日各3便の運行となった。アンケートや利用者からの意見では、高評価がある一方で、利用者によっては目的地に到着するまでに長い時間を要する場合や、時間が合わずに使いづらいことがあり、そのため町内バスの利用ができないという意見も多くあった。当初のコースにおける利用者数や意見による実態把握により、より利便性の高い町内バスとなるよう、令和2年度においてもさらなる検討が必要であると考えます。</p>	<p>引き続き、より利便性が高く住民の利用率が高まるようなバス停やコースの検討を行う。実証実験中に意見が多かった、1周あたりの時間を短縮できるようなコース設定や、利用度によるバス停の増設や統合を検討し新たなコースでの町内バス実証実験を実施する。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>令和2年度においても本事業を継続し、新たなバス停・コースによる町内バス実証実験を行う。実証実験期間中にアンケートや意見を集約し、その結果や乗車数をもとに、本格導入に向けての需要や課題等の実態把握を行っていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



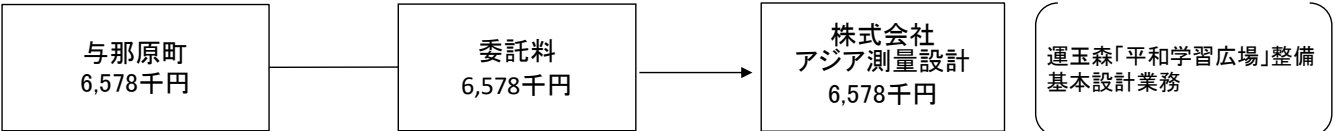
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○車両リースについては、指名競争入札により選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○複数業者の見積りを参考にしており、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○—
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、事業目的に必要なものにおいて支出しており、適正であった。

市町村名		与那原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11	運玉森「平和学習広場」整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-(ア)		
担当部署名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	令和元～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	<p>運玉森は、与那原町のシンボルとなっており、東に中城湾から勝連半島、西に慶良間諸島、北西に読谷村まで見渡せる県内でも数少ないポイントになっている為、個人や団体での登山や学習の場として活用されています。</p> <p>しかし、登山道は未整備のため足場が悪く安全性が確保されていない為、滑落の危険や遊歩道周辺の安全対策が急がれています。運玉森での学習の機会を増やす為、山頂付近での歴史資料や地図等の案内板の整備を行うとともに、登山者の安全を確保する必要があります。</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R4年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
		(a) 当初予算額	6,578				
	(b) 予算現額	6,578					
	(c) 増減額(b-a)	0					
	(d) 繰越額	—					
	A. 計(b+d)	6,578					
	B. 執行済額	6,578					
	うち交付金充当額	5,262					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	・委託入札により、当初契約額6,336千円、変更契約で242千円増となり、計画通り執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	運玉森の遊歩道整備のための基本設計を策定する。	目標	(広場・遊歩道の基本設計策定)	()	()	()	
		実績	基本設計策定の完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平和学習広場までの遊歩道位置の基本設計を行った。 遊歩道の測量を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	基本計画の策定	目標	()	(広場・遊歩道の基本設計策定)	()	()	()
		実績		基本設計策定の完了			
	【参考指標】 平和学習参加者の沖縄戦への歴史に関する理解が深まったか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業の在り方について検証する。	目標	()	()	()	()	(平和学習理解度)
		実績					アンケート実施効果を測定
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平和学習広場までの遊歩道位置の基本設計を無事完了させた。 遊歩道の測量を無事完了させた。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・運玉森「平和学習広場」整備基本設計業務は3案の中で経済性もよく、土砂災害などに巻き込まれる危険性も低い位置で決定できた。 ・測量業務において筆界未定地が多く、次年度の委託業務にて筆界確定に時間を要すると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の基本設計で遊歩道の位置を決定できたが、筆界未定地が多くR2年度の筆界確定により、基本設計で決めた遊歩道位置も調整が必要になると思われる。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・筆界未定地が半分以上締めている為、沖縄総合事務局や地権者へ頻繁に協議をし境界画定することが必要となる。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,578	6,578	5,262	1,316	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託および施工の受注業者は指名競争入札により選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の約1%であり、概ね適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	